10月に入って支持率急落

橋下人気がしぼんだ理由は

雑誌記者 中西 和夫

連日、テレビや新聞で「日本維新の会」の一挙手一投足が大きく取り上げられている。当初、次の選挙で大勝利するのでは、と予想されていたが、10月に入って支持率急落。橋下人気にもかげりが出てきたようだ。かつては飛ぶ鳥を落とす勢いの維新だったが、なぜ急速に人気がしぼんでいったのか、私なりに分析してみたい。

カジノ・風俗で大阪経済を元気にする

「台本が古すぎますよ」。橋下市長は、文楽を観劇した後、記者団にこう述べた。

ちょっと、ちょっと。古典芸能なんやから、台本が古いのは当たり前。「古きを温めて新しきを知る」。文楽から学ぶことはたくさんあるはず。江戸時代から続く無形文化財の文楽に対して「台本が古すぎる」とは…。私はこの新聞記事を見て、空いた口が塞がらなかった。続けて彼は言った、「ラストシーンにぐっと来るものがなかった」。

橋下市長

「台本が古すぎる」

橋下市長 一転 文楽鑑賞

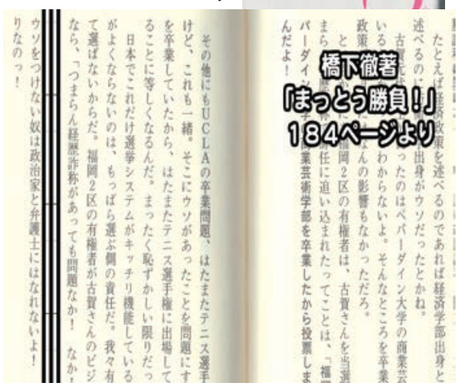
グッとくるものない

人形遣いの顔見えず 魂に落ちない

近松門左衛門の曾根崎心中にケンカを売る政治家は、日本、いや世界広しといえど、彼くらいだ。

橋下市長の文化嫌いはすでに有名となっていて、例えば、大阪フィルハーモニーや大阪市音楽団への補助金カットだけでなく、ワッハ上方をはじめ、演劇や音楽鑑賞の舞台となるドーンセンターやクレオ大阪などにも「廃館攻撃」をかけている。

文化が嫌いな橋下市長は、逆に「カジノ、風俗など猥雑なものはすべて大阪が引き受ける」と言う。大阪湾岸にカジノを開き、「大阪経済を元気にする」=バクチマネーでカジノ経営者を喜ばせ、多くの破産者を生み出す、ことを約束する。


たとえば経済学部を述べるのであれば経済学部出身と述べるのが出身がウソだったとかね。古賀さんはペパーダイン大学の商業芸ったのはペパーダイン大学の商業芸いるのかわからないよ。そんなところを卒業政策学部の影響もなかっただろ。

まらんと経営学部を卒業したから投票しまんだよ！

その他にもUCLAの卒業問題、はたまたテニス選手けど、これも一緒。そこにウソがあったことを問題にを卒業していたから、はたまたテニス選手権に出場することに等しくなるんだ。まったく恥ずかしい限りだ。日本でこれだけ選挙システムがキッチリ機能しているがよくならないのは、もっぱら選ぶ側の責任だ。我々有て選ばないからだ。福岡2区の有権者が古賀さんのビジなら、「つまらん経歴詐称があっても問題なか！　なか！

ウソをつけない奴は政治家と弁護士にはなれないよ！

りなのっ！

橋下徹著
「まっとう勝負！」
184ページより

ウソつきは政治家と弁護士のはじまり

こんな政治家、本当に首相にしてもいいの？と感じたのは私だけではないだろう。

彼が弁護士時代に書いた「まっとう勝負！」では、「ウソをつけない奴は政治家にも弁護士にもなれないよ」とある。ご丁寧にも「ウソつきは政治家と弁護士の始まりなの！」と強調する。

とある代議士が学歴詐称で辞職したことについて、彼は「学歴詐称などたいしたことはない」と言い切る。

理屈はこうだ。人間ウソをついたことのない奴などいない⇩海千山千の相手をねじ伏せるためには、真実一路のおぼっちゃまでは乗り切れない⇩政治家は、日本の将来ビジョンを示す仕事が大事なので、経歴詐称などたいしたことがない。

みなさんはどう思われるか？

確かに長い人生の中でウソをついたことのない人など皆無に等しいだろう。しかしウソには2種類あるということを彼は理解してないのではないか。

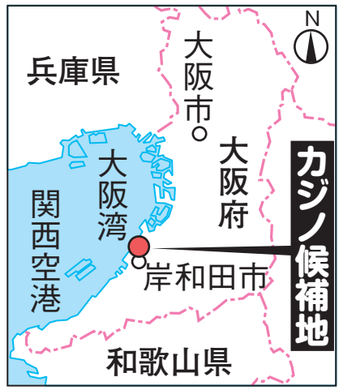
例えば、宿題を忘れて「先生、犬が宿題を食べちゃったんです」などのウソと、選挙に立候補した候補者が、有権者に「アメリカの大学を出た」というウソ。前者のウソと後者のウソを同列に扱うわけにはいかない。

「カジノも風俗街も 大阪が引き受ける」

見識を疑う橋下知事のカジノ構想発言
財界の意向にこたえ、またまた「無理スジ」を押す

本庁ニュース

知事が積極主導 財界大いに乗り気



選挙での公約や経歴は、絶対にウソをついてはいけない。そこでのウソは人としての信義にもとる。

学校選択制は全ての親が望んでいる

彼は堂々とウソをつく。たまたま見ていたテレビで、教育問題を議論していた。

橋下市長は、学校選択制の推進者だが、「学校選択制なんてね、全ての親が望んでいるんですよ。でもね、教育委員会が邪魔をして、選択制を導入しない。親のニーズに合っていないんですよ」とまくしたてた。この時、他のコメンテーターは、彼の迫力にたじろいだのか、じっと拝聴しているだけだった。

私はこの時、思わずテレビに突っ込んでいた。「学校選択制を全ての親が望んでいる」って、いつ、だれが調査したんや！少なくとも俺は小学生の親だが、望んでいないぞ！

実際、学校選択制は非常に問題がある制度で、人気校に生徒が集中し、不人気な学校は廃校になるリスクが大きい。小学校が廃校になれば、その地域にとっても大問題だ。義務教育である小中学校は、親の希望も大事だが、「公共性、平等制」も大事なのではないのか。

馬脚を現わしてきた橋下維新の本質

昨年の地方選挙では「維新」と名乗っただけで、首長や府市会議員が当選した。しかしここへ来て、「橋下維新の本質」が馬脚を現してきた。有権者が「橋下改革」の危険性に気づき始めたのだ。

実は吹田市長も橋下維新の一員である。親分の橋下大阪市長がバッサリと福祉や文化を削っていくので、それに習って吹田でも福祉の切り捨てをしていこうというつもりのようだが、世論は変化している。

「子育てするなら吹田」「福祉の吹田」といわれてきた吹田市が、このまま「維新の方針」どおり福祉切り捨てで進むのか、世論の変化に気づいて、軌道修正できるか、吹田市の方針が問われている。

維新のトオルちゃん　検索

※インターネットで動画も配信中

川内村に花よ咲け

フォーカス focus

〝いーとこ磐城の川内よ、寄ってけ寄ってけヨイサッサー〟— 福島原発から20キロ圏内に位置する川内村。ここは、避難する村民が暮らす福島県郡山市の仮設住宅の集会所。歌う会のしめくくりに「川内小唄」を全員で歌う。

この秋、被災地各地で歌う会などを催し、地道に支援を続ける吹田の宗教者に同行した。「歌はよく歌ってきたよ。田んぼや畑では誰も聞いていないので、大声で歌った。歌うと気持ちがいい」という80歳の女性。震災で夫を失い、泣かずに生活できるようになったのはつい最近のことだ。

「食器も、着物も、何もかも家においたまま。ここは狭いから、物は持ってこれない」プレハブの仮設住宅のあちこちに、花やゴーヤを植えた鉢がみられるが、「こんな狭い場所ではできないし、やる気もしない。広々としてたんだ、川内は」と女性は言う。

仮設住宅のくらし、故郷の村、田や畑、震災で亡くした肉親や友人、見込みを持てない帰村。複雑な思いが毎日、毎日交錯し、そして、今も交錯し続けていることは、想像に難くない。それでも、みんなで集会所に集まって、ピアノの伴奏にあわせ、大きな口をあけて、一生懸命に歌っている。仮設住宅対抗カラオケ大会の本選出場をめざし、持ち歌の練習にも励む。

〝雪も降ります氷も張るが、人の心は温かい〟— 人間は、そして人間集団は、互いに力を合わせて困難に立ち向かうことを確信する。一方で、彼ら、彼女らを村から引き離し、こんなに狭く遠いところに押し込めている政府や東電。震災を忘れ、増税や復興予算を当て込み、大型公共事業や社会保障の「自己責任」化に狂奔する政治勢力。今すぐ政治がすべきは、避難住民にせめて同等の住まい、くらしを保障することではないのか。

〝都ばかりが花咲くものか、川内村にも花が咲く、いっしょに歌いながら、「決して忘れない」と誓った。　（ともはる）